

# 新城市・吉竹遺跡 地元説明会資料

よし たけ

2008年6月15日

愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター  
国際文化財株式会社  
中日本高速道路株式会社豊川工事事務所新城東工事区  
新城市建設部高規格道路課  
新城市教育委員会文化課



東からみた調査区全景（牛倉地区をのぞむ）



# ①調査の概要

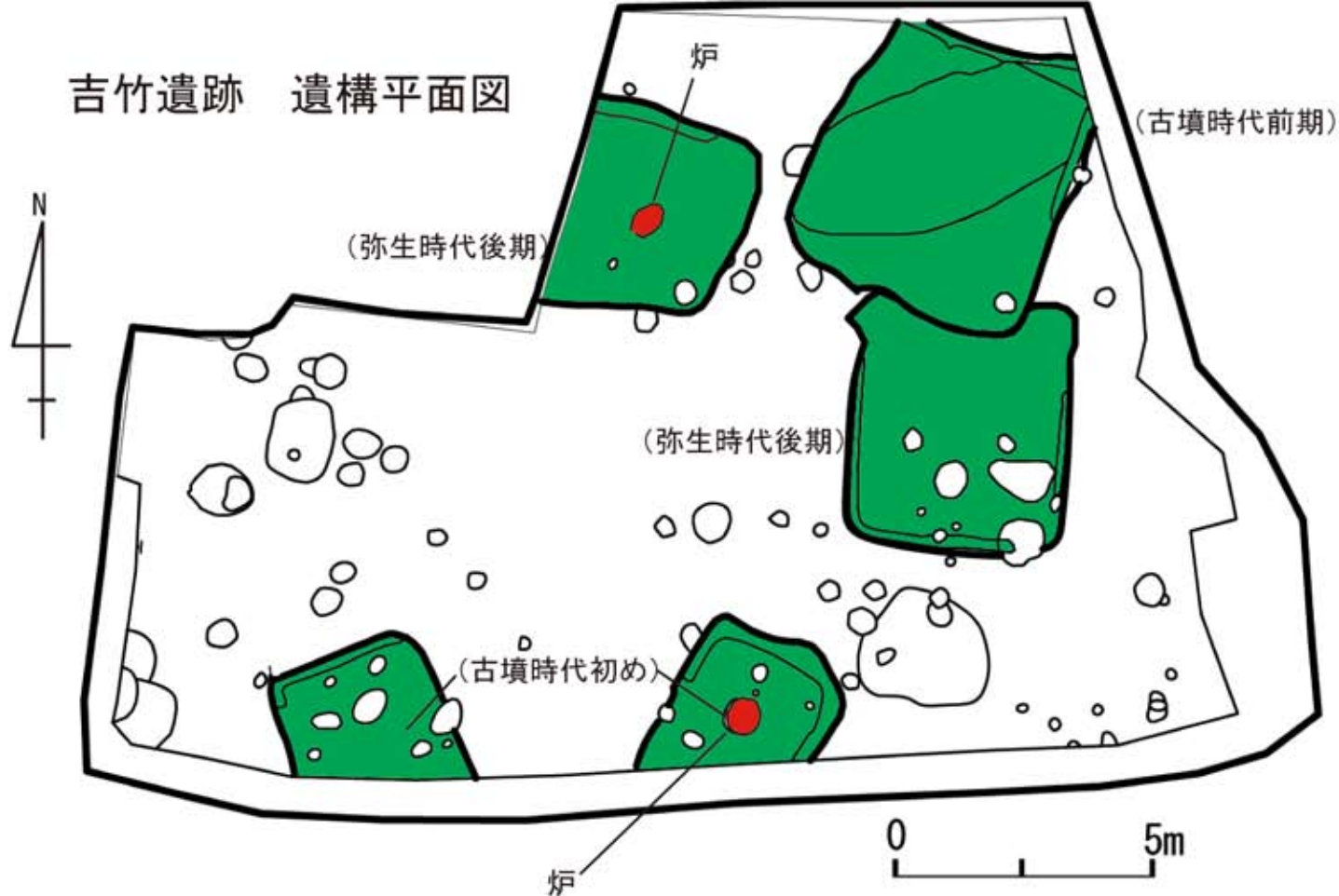
今回の発掘調査は第2東名高速道路建設に伴うもので、牛倉・大宮・須長地区などの発掘調査を行う予定です。

吉竹遺跡では弥生時代後期から古墳時代前期頃の竪穴住居を5棟発見し、約1900年前から牛倉地区で人々が定住生活をしていたことがわかりました。



周辺遺跡分布図

## 吉竹遺跡 遺構平面図



## ②調査の成果(竪穴住居を掘る)

今回の発掘調査では、竪穴住居と呼ばれる建物跡が5棟、土坑と呼ばれる穴が90基程度が見つかりました。

またこの竪穴住居跡から土器や石器といったこの時代の生活がわかる道具が残されていました。

残された土器から住居があったのは弥生時代後期(約1900年前)から古墳時代前期(約1800年前)であると考えられます。



1. 竪穴住居を掘る前は周りの黄色の土の中に黒い土がみえます。この中が竪穴住居と考えられます。



2. 竪穴住居を掘っていくと溝や穴が見つかり、さらに土器なども出てきました。



3. 溝や穴を掘り進めると真ん中に大きな穴が出てきました。これはおそらく火を使った炉と思われます。



### ③出土した生活道具

吉竹遺跡では土器が出土しました。種類は壺(つぼ)、甕(かめ)、高杯(たかつき)で、食器として使われていたものです。

石器では紡錘車と呼ばれる糸をつむぐ道具や、石包丁と思われる破片が出土しました。



壺(つぼ) 甕(かめ) 高杯(たかつき)



紡錘車(ぼうすいしゃ)

### ④用語の説明

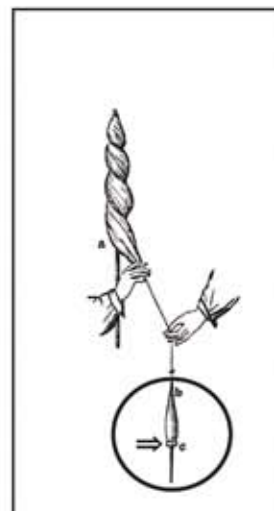
- ・弥生時代 約2800年前から約1800年前までの時代をいいます。農業が始まり、人々が定住していく時代です。
- ・古墳時代 約1800年前から約1400年前までの時代をいい、土を盛り上げてお墓が作られました。
- ・竪穴住居 穴を掘りこんでつくった半地下式の住居です。
- ・壺 おもに水やお酒などの液体のものを貯蔵しておくものです。
- ・甕 おもに煮炊きに使われる道具でよく吹きこぼれたあとが残っています。
- ・高杯 おもに食べ物を盛り付ける器です。
- ・石包丁 稲刈りのときに穂首を刈り取る道具です。
- ・紡錘車 糸をつむぐときに巻き取る道具で木製や石製のものがあります。



壺・甕・高杯(復元)



竪穴住居(復元)



紡錘車(ぼうすいしゃ)